

兵庫憲法集会 (2022・11・30) 柳澤協二さん

「戦争を回避する日本の戦略」を聴いて

2023年に想う



BC5世紀ギリシアでは、従来の覇権都市国家であったスパルタと海上交易で新興勢力となったアテネとの間でペロポネソス戦争が戦われ、各々の同盟都市を巻き込みながら約27年の長きに亘って戦争が継続された。戦争を不可避にしたのはアテネの台頭によるスパルタの恐怖心であった。戦争は両国の絶え間ない兵器の更新とそれに対応する経済負担が、作用/反作用として繰り返され、その結果両国とも疲弊、衰退したのであった。この軍事拡大競争は今の時代「安全保障のジレンマ」と言われる。

現在、覇権国アメリカと新興国中国の対立が現在の歴史の舞台に登場している。柳澤さんは、この講演で「ウクライナ戦争で日本も戦争の危険性を感じる気運が強まり戦争反対/平和を守りだけでは戦争危機を抑制できない」「長きに亘って成長なき世代の若い人たちに戦争反対の声は届くのだろうか」と述べる。戦後の米ソ冷戦は、米ソの大国間の「安定」が維持されたが現在は信頼なき大国間の緊張状態にある。しかし日本は従来のアメリカ一辺倒の枠組みから脱け出せず日米軍事同盟を更に強化し軍事費の大幅増に踏み切ろうとしている。対米依存では戦争回避はできない。伝統的な「抑止」は既に破綻した時代なのだ。抑止は脅しであって平和の維持には相互の「安心供与」が重要である。それは大国だけで成しえるものではなく「中小国」が故にその実現を可能とする。米中の二者択一を迫らない事こそがとりわけ東アジア諸国の想いである。

日本はエネルギーの大半を食料の7割を海外依存し、戦争で海外との関係が遮断されると国民は生きていけない。

また日本政府が言う「敵基地攻撃」の真実は、「米軍が指示する目標を米軍が指示する時間に攻撃をする。つまり日本の攻撃の引き金は米軍が握っている」と指摘する。南シナ海、台湾有事になれば沖縄をはじめ在日米軍基地にミサイルが被弾するだけではなく、原発を抱えながらの敵基地攻撃は自殺行為ではない。

日本政府は、昨年12月安全保障政策を改定し今後5年間で43兆円の「防衛費」を投入するとし、2027年には米中口に続く世界第4位の軍事大国になるとした。戦争の準備ではなく戦争の悲惨さを回避する戦略を如何に形成していくのかを探らねばならない。

ドイツの元大統領ワイツゼッカーは、ドイツ敗戦40年の1985年に「過去に目を閉ざす者は結局のところ現在にも盲目となる」と演説したのである。

春日台 Y.0 記

◆ 1月のつどい「戦後民主主義と若者たち」

1月22日(日) 14:00~16:00

西区文化センター2階 第3会議室 参加費 300円

講師 山本昭宏さん(神戸市外国語大学准教授)

※詳しくはチラシをご覧ください

◆ 15回記念のつどい

5月20日(土) 13:00 開場 13:30 開演

近じかチラシ完成、配布予定です。

◆ 西神ニュータウン9条の会 年次総会

2月19日(日) 14:00~16:00

西区文化センター2階第3会議室

22年度活動のまとめと23年度方針について

会計報告、DVD上映予定

ご参加をよろしくお願いいたします。



Act Now 1(イ千)の日行動 あなたもご参加を!

★毎月一回、西神中央駅前「改憲 No! 九条壊すな!」のアピール行動を続けています

★次回は2月1日(水) 16:00~17:00 (コロナの感染状況で変更もあります)

2022年の終わりに

もうすぐ新しい年を迎えようとしている。今年の事件は何と言ってもロシアのウクライナ侵攻だろう。各国が国の安全保障の見直しに迫られている。日本もしかし。国民の危機意識の高まりに乗じて早々と防衛費予算の引き上げを決めてしまった。

「やるなら いまでしょ」と政府の声。

九条の会が発足して 20 年。今は沖縄におられる澤地久枝さんはときに首都まで駆けつけ運動に参加しておられるようだが、当初の提唱者はほとんど亡くなっている。

西神ニュータウン 9 条の会も高齢化で活動の今後を危ぶむ声もある。確かに若い血が入っていないのは残念である。若い世代は忙しい。政治にアクションをおこさないことに不満な人もいよう。しかし会員数が増えることを追求する必要はないと思う。検索すると各地で九条の会の人たちがいることがわかる。元々政治団体ではないのだから。憲法の理念のもとに平和な社会をつくろうと表明していることが重要と思う。

平和のタネをまくつもりで。まずは自分のまわりから。若い世代と接する機会があれば伝えていこう。憲法の理念、平和への努力の大切さ、政治の大切さ、そして政治を監視することの大切さ。

しかし「何でもかんでも政府を反対したいわけじゃないんだけどやるのがおかしいんだよな。」とは私の声。 (N. N)

ジョー 旬

借金で ミサイル買うか 北笑う (伝伝)
いつの間に 竹串太く なる竹輪 (骨歩)
敵国が 怖いと軍拡 まっしぐら (空耳)

y-onishi@live.jp

に投稿お待ちしております。

「神戸に平和記念館をつくる会」

学習会に参加して

去る12月4日、中央区文化センターで「神戸に平和記念館をつくる会」主催の学習会が開催され、それに参加しました。講師は山本昭宏先生、「戦後民主主義と9条」というテーマでのお話でした。

今は改憲勢力がいつでも憲法改正を発議し、国民投票に持ち込める状況にあり、またウクライナ戦争を機に、防衛政策転換が進んでいるという認識から、話は始まりました。

山本先生が考える戦後民主主義の中味は、平和主義・直接民主主義・平等主義の3つで、1947年の日本国憲法制定から戦後民主主義を振り返ります。

冷戦構造の中、占領政策が変化し、日本は1951年のサンフランシスコ講和条約締結と同時に日米安保条約を締結、52年に主権を回復しました。

60年安保の声なき声の会や70年代はベ平連の市民運動があり、戦中派の論壇が戦後民主主義を擁護しました。90年代、戦後民主主義は曲がり角を迎えます。自衛隊の海外派遣が始まり、1994年に社会党が政権に参加、自衛隊容認・非武装中立論破棄と大きく方針転換しました。

2000年に入り改憲論が動き出し、それに対し2004年には9条の会も設立。そして第2次安倍政権以降、戦後民主主義の要素の平和主義が曲がり角にさしかかっています。

日本人の自国平和意識が、世界の平和に向けて広がらないことを、山本先生は問題視されます。本会1月のつどいで、またお話をお聞きするのが楽しみです。

(狩場台 ヒストリアン)

2023年1月発行：西神ニュータウン9条の会

〔HP〕 <http://www.ne.jp/asahi/seishin/9jyonokai>

〔連絡先〕 TEL 090-3359-0776 (大西)



HPにリンク

防衛力強化の世論に思う

最近の世論調査によれば、防衛力強化の声が強まっています。NHK：「反撃能力」保有に賛成 55%、反対 31%。朝日新聞：「敵基地攻撃能力」に賛成 56%、反対 38%。女性は賛否がほぼ同数なのに、男性は賛成が倍以上、内閣不支持層ですら賛成が上回っているのが実情です。残念ですが、岸田政権の軍拡政策は民意に沿っているように見えます。一方、防衛力強化のための増税となると、賛成 28%、反対 61%と逆転します。



防衛力強化の世論の背景には、連日報道されるウクライナの惨状があるようです。戦争映像が人々の扁桃体・不安中枢(図)に間断なく作用し、不安が高まれば、身を固くするのも無理はなさそう。でも、5年で43兆円・・・国民1人当たり35万円(4人家族だと140万円)も負担する勘定。打出の小槌などなく、増税、福祉切り詰め、国債で子や孫への借金先送り? いずれにしても、前頭前野(図)でチェックしてから防衛力強化に賛成しても遅くはないでしょう。ここでは、試みに3つのチェックポイントをあげてみました。

1) 日本が外国から攻撃される恐れって、自明のこと?

東南海・南海地震は様々なデータから今後30年間の発生確率を40~50%と推定、国民の命を守る国土強靱化(5か年で国費5兆円)が実行されている。今回はその8倍超の莫大な国費投入だが、どれほどのリスクを想定してのことだろうか? 地続きのウクライナとは違い、「上陸しにくい島国」、偶発要因を加味してもリスクは低いのでは?

2) 原発はミサイル攻撃の標的にならないか?

岸田政権は軍拡とともに老朽原発再稼働を標榜しているが、現行の原発設置基準には上空からのミサイル攻撃耐力の項目はない。日本海沿岸には原発が立ち並び、狙い撃ちされれば、福島惨事が至る所で再現する。この国防上の矛盾をどう理解する?

3) エネルギー・食糧自給率の低さで戦争遂行は可能か?

日本のエネルギー・食糧自給率は12%、37%で先進国でも格段に低い。戦争を始めても兵糧は1か月ともたない。また、加工貿易で食っている国で、特に対中国貿易額は全体の27%も占めている。中国と事を構えたとなん、日本経済は99%破産する。

岸田政権は矛盾だらけの防衛戦略のまま、国民に巨額の負担を押し付けているように見えます。なぜこんな無茶を? どうも背後に米国の影がちらつきます。アフガン戦争に懲りた米国が日本に型落ち兵器を売りつけ、東アジアの盾に仕立てる? 安倍さんがトランプに未完成のイージスアショアを言い値で買うと約束したのもシナリオ通り? 日々、戦争映像を見せられれば、怖いのも分かりますが、軍拡ムードに流される前に、立ち止まる勇気ぐらい持ちたいものですね!
(竹の台 タイガー)

◆ 西神ニュータウン9条の会年次総会

2月19日(日) 14:00~16:00
西区文化センター2階第3会議室
22年度活動のまとめと23年度方針について
会計報告、DVD上映

◆ 「ストップ軍拡! 市民集会&デモ in 兵庫」

2月23日(祝) 14:00~ 婦人会館4階
※ チラシをご覧ください

◆ 3月のつどい「東アジアの平和と日本」

3月12日(日) 14:00~16:00

お話 伊東武是さん

西区文化センター2階 第2会議室参加費300円

◆ 15回記念のつどい

5月20日(土) 13:00開場 13:30開演

平田オリザさんの講演と神戸センター合唱団

Act Now 1(イチ)の日行動 あなたもご参加を!

★毎月一回、西神中央駅前「改憲No! 九条壊すな!」のアピール行動を続けています

★次回は3月1日(水) 16:00~17:00 (コロナの感染状況で変更もあります)

「共に生きるための演劇を」

平田オリザさんについて

オリザさんは1962年11月8日東京生まれ、現在60歳、職業は劇作家、演出家。代表作は「東京ノート」、「ソウル市民」、「幕が上がる」。「現代口語演劇理論」の提唱者であり、自然な会話とやり取りで進行していく「静かな演劇」の作劇術を定着させた。

★「現代口語演劇理論」

芝居がかったセリフではなく、日常的な話し言葉で舞台を演出する。

日本の演劇は西洋で生まれた近代演劇をそのまま輸入してしまった、つまり欧米の言語、特に英語、ドイツ語、ロシア語は語順が決まっています、セリフを言う時に、感情を表現するには、単語の強弱のアクセントで表現する。ところが日本語では強弱アクセントはほとんど使わない。強調したい言葉を文頭に持ってきて、繰り返すことができる。

『その、竿を、立てろ』→『竿、竿、竿、その竿立てて』

★「会話」と「対話」

演劇は他者を必要とし「対話」の構造を要請する。日本社会はほぼ等質の価値観や生活習慣を持った者同士の集合体＝ムラ社会を基本として構成され、その中で独自の文化を培ってきた。

⇒「わかりあう文化」「察しあう文化」

一方ヨーロッパは異なる宗教や価値観が、陸続きで隣り合わせているために、きちんと他人に言葉で説明できないといけない

⇒「説明しあう文化」

異なる価値観に出くわした時に、物おじせず卑屈にも尊大にもならず、粘り強く共有できる部分を見つけていくこと。

これから成長して否が応でも国際社会を生きていかなければならない日本の子どもたちに、演劇と言うツールを使って、他者に対して言葉で説明する能力を身につけさせてあげたいと思う。

小説「幕が上がる」でも演劇の力を感じましたし、実際にオリザさんは学校の教科書に演劇用のスキット(寸劇)を書き各地の学校で実践されています。

ふう (井吹台)

1月のつどい

「戦後民主主義と若者たち」報告

「9条の会」も担い手が高齢化し、昔の若者ばかりになってしまいました。今の若者の考え方など、ご自身も若い山本昭宏先生から興味深いお話を聞くことができました。

先生は、国政選挙の投票率などで、若者は全体の平均よりかなり低く、「政治」をポジティブに見ていないようだが、40歳代など中年層でも同じような傾向が見られ、若年・中年問題と見るべきだと指摘されました。

戦後民主主義の価値観の変遷など、歴史的な説明がありました。今の若者は、新自由主義の影響を大きく受けている。国家が介入して規制緩和など自由競争を促す経済システムのおかげで、「自分の能力で社会をサバイバルしていこう」という考え方を強く持ち、他者の問題には踏み込まない、「他者や個性を尊重する」が、批判されることは否定されたと理解する傾向が強い。このような意識は、90年代に社会人となった「団塊ジュニア世代」から始まり、若年・中年共通の状況になっていると説明されました。

2010年頃から、若い世代は、安保法制や原発稼働などの反対運動を担ってきた面があり、単一の課題でも十分なので、社会に関わることで自分と社会をより良く変えていくという意識を育てることが大切だ。若者たちの中に種を蒔き、経験を分厚くすることが重要ではないかとまとめられました。 <参加者:41名>

KH (樫野台)

ジョー

国会の嘘を許せば 付けがくる (伝伝)
勤労に 正規・不正規 ある不思議 (空耳)
あの頃も 産めや殖(ふ)やせよ 国のため (現妻)

y-onishi@live.jp

に投稿お待ちしております。

2023年2月発行：西神ニュータウン9条の会

〔HP〕 <http://www.ne.jp/asahi/seishin/9jyonokai>

〔連絡先〕 TEL 090-3359-0776 (大西)



HPにリンク



地方政治から世界平和を！

平田オリザさんを迎えての「第15回記念のつどい」に神戸市・神戸市教育委員会からの後援承認がありました。実は憲法記念日に市民団体主催の「憲法集会」（当会も賛助団体）がありますが、この「後援」申請に対して2014年から今日まで「不承認」が続いています。神戸市は「不承認」の理由として「憲法に関しては、『護憲』『改憲』それぞれ政治的な主張があり、憲法に関する集会そのものが、政治的中立性を損なう可能性がある。このため、上記の集会について後援することは差し控えたい」としています。

神戸市は1976年の「新・神戸市総合基本計画」の中で「人間都市の基盤は、現在の平和憲法をくらしの中に生かしていくことにある・・・市民生活を保障する不可欠の条件として平和都市を基本姿勢とする」としています。

憲法を暮らしに生かすとは、憲法の基本原理である人権、民主主義そして前提としての平和を具体的に自治体が行うことではないでしょうか。非核「神戸方式」は、神戸市議会が全会一致で採択した「核兵器積載艦艇の入港拒否に関する決議」（1995年3月18日）を根拠に「非核証明書の提出がなければ入港を認めない」というものです。全国地方自治体の中で考案された「権力的平和行政」として、唯一実施されているものです。また、国連が招集した会議の最終文書で非核「神戸方式」の内容が引用されるなど、世界的にも注目されています。

今日、政府は、アメリカの核兵器積載可能艦船の入国に際し、事前通告がないことを理由に核の存否の確認を行わず、「非核3原則」を守っていません。神戸「非核方式」実施後、米艦船の入港は途絶えています。他の65港には1996年～2020年までに米艦船が426回も寄港しています。非核証明書を出した他国の軍艦は22隻で神戸港に寄港しています。

このように、地方議会、首長、市民の力で世界平和を築く礎になり得るものです。

しかし、神戸市は憲法から離れる対応を強めています（例えば2020年2月に自衛官募集対象者情報を電子データで自衛隊に渡すなど）。全国的にみられる地方議会のオール与党化は、憲法の平和主義から離れていく道につながっています。

3月31日公示、4月9日投票の一斉地方選挙がありますが、護憲勢力の躍進で地方から世界平和を作っていきたいものです。
(竹の台 島田)



第2次世界大戦、朝鮮戦争、ベトナム戦争に派遣された米海軍空母が神戸港に停泊。甲板には戦闘機や攻撃機が並んだ
(1961年9月)
神戸新聞より

◆3月のつどい「東アジアの平和と日本」

3月12日(日) 14:00~16:00

お話 伊東武是さん

西区文化センター2階 第3会議室 参加費 300円

※詳しくはチラシをご覧ください

◆4月のつどいはありません

◆5・3兵庫憲法集会

5月3日(祝) 13:30 オープニング

14:00 開会 神戸・みなとのもり公園

※詳しくはチラシをご覧ください

◆15回記念のつどい

5月20日(土) 13:00 開場 13:30 開演

平田オリザさんの講演と神戸センター合唱団

Act Now 1(イチ)の日行動 あなたもご参加を！

★毎月一回、西神中央駅前「改憲 No! 九条壊すな！」のアピール行動が続いています

★次回は4月1日(土) 16:00~17:00 (コロナの感染状況で変更もあります)

「日本文学盛衰史」—平田オリザ演出

伊丹アイホール、2月4日の客席は、若い人から老年まで満席。平田オリザさんが受付におられて「神戸でよろしく」とご挨拶しました。

舞台は4人作家たちの葬儀に明治以降の若い文学者たちが集まってそれぞれの文学への批判や共感、その時代を宴席で楽しく話し合う、2時間半の舞台。素敵な感想を紹介します。字数の関係上省略しました(ゴメンネ)。

- ・今を生きる私たちにとって、明治からの文学や言葉の神髄が、脈々と受け継がれていることを改めて確認しました。幸徳秋水、菅野スガノのミルクボーイをまねた掛け合い漫才は良かったです。高橋源一郎の「日本文学盛衰史」読んでみます。
- ・何年振りかで「舞台劇」を観ました。2時間半で休憩なしということで不安でしたが次々と話の展開に引き込まれました。明治と現代を行き来して笑いを取り入れながらの舞台作りって面白いと思いました。
- ・この舞台に限らず演劇をみると、いつも言葉の美しさ豊かさに感動します。平田オリザさんは各地で教育現場にも関わっておられます。演劇を通じて言葉とコミュニケーションの大切さを伝えておられたのだと思います。
- ・それぞれの人の生前のエピソードに加え、現代の問題にも関連づけて話が展開していきます。私の個人的な感想は、啄木の言葉が、その場面に、的確で美しく、藤村の歌が素敵でうっとりしていました。(たけし)

電気代 高くしてから 再稼動 (伝伝)
よく見とこ 誰が得する? 軍拡で (空耳)
家系図を 自慢するなら 競馬場 (世襲)

y-onishi@live.jp

に投稿お待ちしております。

2023年総会(報告)

2月19日西区文化センターで2023年総会が開催されました。参加者は20名。冒頭ではTBS報道特集「敵基地攻撃の衝撃」を視聴。河野洋平元衆院議長の「戦わない為に何が必要なのか、どの様な外交努力がなされているのか、現政権にはその説明が全くない」が印象的であった。

総会は2022年の会計・監査報告に続き、9回/年の「月のつどい」、第14回記念のつどい「ペシャワール会藤田さん」の講演、HPの1回/月更新、NEWS「つながり」の1回/月発行、11回/年の「1の日行動」などが報告されました。

2023年は、岸田政権による軍備拡大、老朽原発の再稼動など命と平和を守る憲法9条にとって大転換となる状況が加速しています。当会の発足時の理念であった「この街に戦争はいらない」が失われようとしています。戦争を避け、平和を維持していくために当会も幅広く他の市民団体などとも連携していく事が求められます。

本年の取り組みとして5月20日開催の「第15回記念のつどい」で平田オリザさんの講演等を予定しています。またHP、NEWS、「月のつどい」、「1の日行動」なども継続実施していく事が報告されました。

新体制では会長(大西)、事務局長(島田)が担当します。当日の参加者からは、次の様な意見が提出されました。

- ・HPに会員や一般の方の投稿、写真などを
 - ・若者にも読んでもらえる「9条の会」パンフレットを
 - ・「月のつどい」は座学だけでなく足で現地を見る企画も
 - ・ニュース会員を増やすことが大切
 - ・年会費の支払い方法に工夫を
- (文責 大西)

2023年3月発行：西神ニュータウン9条の会

[HP] <http://www.ne.jp/asahi/seishin/9jyonokai>

[連絡先] TEL 090-3359-0776 (大西)



HPにリンク

この街に平田オリザさんをお迎えします！

ミルクボーイの漫才を幸徳秋水と菅野スガ子が行った。

菅野：オカンが言うには、金持ちも大喜びっていうんねんな。

幸徳：ほな、共産主義と違うか。

菅野：そやろ。

幸徳：金持ちが、共産主義が好きなわけないもんな。

こうした現代の世相なりエンターテイメントを取り入れた「日本文学盛衰史」が2月4日に伊丹で上演され、西神9条の会から10名が観劇した（先月号“つなかり”参照）。

この「日本文学盛衰史」（高橋源一郎作、平田オリザ脚色・演出）は昨年9月、豊岡演劇祭で上演（ヤブ市民交流広場他）されていた。一昨年はコロナ禍で中止されたが、「街づくりに演劇の力を活かす」の22年豊岡演劇祭は但馬一帯（豊岡、城崎、竹野、神鍋、江原、出石、但東、養父、香美）で、会場は25会場（劇場はもとより、体育館、神社、玄武洞、城崎西村屋等）で再開された。実行委員会には豊岡市はもとより多くの団体が参加し平田オリザがフェスティバルディレクターをつとめた。県民の私たちですら但馬へは年に一度程度しか行かないほどで、温泉、スキー、蟹のイメージにアートが加わって全国から80の個人と劇団、そして観客18000人が参加した。まさに街づくりに人づくりになっている。

今、地方選挙が行われているが、昨年四月、日本で初めて「演劇」そのものが争点になった豊岡市長選が行われ、「演劇の町なんていない」と公言した市長が当選した。しかし、この演劇祭には、豊岡市も実行委員会に入るほど変化している。文化・芸術は地方再生になくてはならないものとして全国で注目されている。

子どもも一緒に家族で豊岡に住み、劇団員も移り住んでいる。東京一点集中から地方での街づくり・人づくりはまさに「地方自治の本旨（憲法92条）」であり、民主主義の根幹を実践しているように見られる。

また、初めての公立の文化芸術観光専門職大学が生まれ、その学長として全国の若者に文化観光を学ぶ場を提供している。豊岡の小学校、保育所へも舞台を届けている。

私は60年ほど芝居を見続けているが、平田オリザさんのような劇作家・演出家に出合ったことはない。21世紀の演劇、芸術、地方自治の有り様を示している。文化・芸術における人づくりだ。

今、私たちの周りは、防衛費を倍増させ、トマホーク400機を買取り、敵基地攻撃を可能にしようと、戦争への準備がされている。戦争の危機を煽ることは簡単だが、平和への準備は私たちの不断の努力がいる。

今回、平田オリザさんから、文化、芸術を、地方再生から様々なことを学び、「平和な街に戦争はいらない」という、私たち「憲法9条を守る運動」を地道に進めていく、それはまさに「平和の準備」を進めていくことになっていくだろう。（たけし）

5・20（土）第15回記念のつどいが近づきました！

つどい成功のために、チラシ配布やチケット普及にご協力をよろしくお願いします。

◆5・3兵庫憲法集会

5月3日（祝）13:30 オープニング
14:00 開会 神戸・みなとのもり公園
ご一緒に参加しましょう!!
<西神中央駅改札口12:00集合>

◆6月のつどい

6月18日（日）14:00～西区民センター
与那国島、石垣島、宮古島平和ツアー報告
報告：島田徹さん（竹の台、当会会員）

Act Now 1(イチ)の日行動 あなたもご参加を！

★毎月一回、西神中央駅前で「改憲No! 九条壊すな!」のアピール行動を続けています

★次回は5月1日(月) 16:00～17:00 (コロナの感染状況で変更もあります)

南西諸島へ「平和の旅」

岸田内閣は昨年12月に「安保3文書」を閣議決定し、「台湾有事」を演出して、南西諸島で自衛隊を米軍の矛として軍備拡張を進めています。

3月5日～8日まで、与那国島、石垣島、宮古島の平和の旅(日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会主催)に参加しました。

南西諸島の奄美大島から与那国島までミサイル基地建設が、2016年くらいから急ピッチで進められ、その自衛隊員も1000名ほど配備されます。

5日に石垣島(5万人)で基地反対の集会があり、参加者は200人ほどで、私たち40名が参加しました。

与那国島(1600人)は日本最西端の島。台湾は石垣島より近く、交流が昔から盛んでした。住民交流会では地元の方の話を聞き、またジャーナリストの金平茂紀さんも参加していました。

宮古島(5.5万人)の案内役は地元9条の会の方で、その話を紹介します。

① 住民の頭は「戦争はダメ」、しかし、仕事がない島では自衛隊も生活の糧になるのであれば、「受け入れざるを得ない」とし、「沈黙の住民」となっている。自衛隊の家族が村に来れば、学校でも地区でも基地反対は言えなくなる。

② 憲法9条に「日本国民は正義と秩序を基調とする国際平和を、誠実に希求し…」とある。人の命を思いやる、他人の領域を侵さない、当たり前正義と国際秩序を求めることを日本国民に迫っているのではないか。

③ 例えばウクライナの戦争で毎日、人の命が奪われている。「どんな戦争もいけない」この姿勢が平和運動の原点であり、連帯の原点ではないか…

「戦争の準備」でなく、「平和の準備」のための平和外交をどう作っていくのか。核兵器禁止条約は、小さな国が集まって国連で成立したものです。

国際社会の正義を信じアジアから戦争をなくす枠組みを作る必要があると

学んだ平和の旅でした。(詳細は後日) 竹の台 島田

3月のつどい

お話:伊東武是さん

東アジアの平和と日本 台湾問題をめぐって

台湾は、17C末清朝に征服されたが1895年日清戦争により日本の植民地となり1945年中華民国に返還された。抗日戦争では国民党と共産党は国共合作で統一して戦ったが、その後の内戦で1949年共産党が勝利し建国。蒋介石国民党は台湾に逃亡し中華民国の恐怖政治を経て現在に到る。

1971年国連は台湾を排除し、中国を常任理事国として承認。米国は翌年のニクソンの電撃訪問で「ひとつの中国」に合意するも「中国が台湾を武力統一しない」約束に到らず、1979年に米中国交回復が実現した。当時米国はベトナム戦争に苦しみ、中国は文革に苦しみ1976年周恩来、毛沢東が死去、鄧小平が復活し「改革開放」が始まった時期であった。

1990年ソ連崩壊後、米国は中国を米国主導の枠組みに組み込むとした「関与」政策を実施したが中国の急激な成長と大国化は、米国にとって大きな脅威となってきた。現在台湾問題は、米中対立の焦点となり日本の軍備拡大を巻き込みながら台湾への軍事支援が増大している。

米中関係は、米国の「挑発」と中国の「反発」が交錯する緊張局面に到っており米国は覇権の維持に圧力を強める一方で中国は「自分たちは覇権争いの犠牲者」とする犠牲メンタリティーを対外政策の基調としている。

「3月のつどい」は31名の出席者で、分かり易い話に一同感服、10件を超える質問、意見が出され盛会となりました。(文責 市原)

ジョー

便利な世 低賃金が 下支え (伝伝)
中国いじめ 日本たたきが 懐かしい (空耳)
春霞 言っておられぬ 白内障 (骨歩)

y-onishi@live.jp

に投稿お待ちしております。

2023年4月 発行: 西神ニュータウン9条の会

[HP] <http://www.ne.jp/asahi/seishin/9jyonokai>

[連絡先] TEL 090-3359-0776 (大西)



HPにリンク

西神ニュータウン9条の会 第15回記念のつどい

5月20日(土) 13:30開演 <西神中央ホール>

平田オリザさん講演&神戸市役所センター合唱団

皆様のご参加をお待ちしています



軍備拡大が強化されようとしています。私たち9条の会は敵を作るのではなく、平和を維持、発展させることこそが人びとの暮らしと生存を守ることと考えています。そして文化には人と人をつなぐソフトパワーがあり、平和の備えには文化による力が今こそ必要とされています。

(詳細は折込みチラシをご参照ください)

3月7日「戦争させない、9条壊すな! 5・3プレ集会」で・・・

防衛ジャーナリストの半田滋さんの講演を聞きました。いつもは、優しい話し方の半田さんが、とても、危機感をもって話されていました。「安保関連3文書は、日本の安全保障政策を大転換するものです。反撃能力と言い換えながらも、敵基地攻撃能力の保有が決定しました。しかも、何をもちって攻撃の着手と判断するのか、何も書かれていません」

「米国の統合防空ミサイル防衛(IAMD)は、陸海空、宇宙のあらゆる兵器を統合して敵のミサイルを破壊する米国の計画。それに参加するということは、敵基地攻撃を含んでいるということです」「防衛力を5年以内に抜本的に強化すると表記されており、NATOなみのGDP比2%。5年間の防衛費は、43兆円。財源は増税などで賄う。私たちは、重い負担を引き受け、軍事力強化を望むのか」と、問いかげられました。最後に「平和は、軍事力ではなく、命がけの外交によって初めて実現する」と結ばれました。半田さんは、講演後、ソファにぐったりとされ、力を込めて話されたと思います。

本当に、危機感をもちました。

(狩場台 角屋克子)

◆ 6月のつどい

6月18日(日) 14:00~16:00

西区民センター 2階第3会議室

参加費 300円(学生さん無料)

「与那国島、石垣島、宮古島
平和ツアー学習会の報告」

報告: 島田徹さん(竹の台、当会会員)

◆ 7月のつどい

7月16日(日) 14:00~16:00

西区民センター 2階第3会議室

参加費 300円(学生さん無料)

「安保関連3文書について」

講師: 八木和也弁護士

(明日の自由を守る若手弁護士の会)

Act Now 1(イチ)の日行動 あなたもご参加を!

★毎月一回、西神中央駅前「改憲 No! 九条壊すな!」のアピール行動を続けています

★次回は6月1日(木) 16:00~17:00 (コロナの感染状況で変更もあります)

「戦争ではなく平和の準備を-抑止力で戦争は防げない-」

講師: 青井未帆(学習院大学教授・平和構想提言会議共同座長)

三人のピカソー大江健三郎・坂本龍一・奈良岡朋子

一 昨年の記念講演会での宇宙物理学者池内了さんは、「戦争を抑止できるものは何か」(「世界」2020年10月号)で「私はかつて『ピカソで国を守ろう』というスローガンを唱えたことがあるが、平和主義は文化の粋が満ちている国でこそ実現するとおもっている」と述べられている。

この3月、日本で「文化の粋」を満ちる国をめざした3人のピカソが亡くなった。

一人は、大江健三郎さん(88歳)である。いうまでもなく9条の会の呼びかけ人であり、ノーベル文学賞の受賞者。「沖縄ノート」「広島ノート」を書き、反原発など市民の平和と幸せのために積極的に発言し、市民とともに憲法9条を守る運動の先頭にいた。

今一人は、坂本龍一さん(71歳)である。音楽活動と並行しながら、安保関連法案に反対し、「非戦」を唱え、脱原発10万人集会に参加し、「明治神宮外苑の樹木大量伐採(同地区の再開発)」中止の手紙を小池都知事に送っている。まさに市民の平和と幸せを守る先頭に立っていた。

二人は世界的にも広がり、何よりも文学、音楽という表現は形として後世にも引き継がれて残っていくものである。

ところが3人目の奈良岡朋子さん(93歳)。演劇分野での表現は、舞台と客席での感動であって、観客の心にしか残っていかないものである。90歳を過ぎても九州から新潟と旅して、井伏鱒二の「黒い雨」の朗読会を行い、彼女の優れた声で平和を心に灯していった。75年にわたる舞台での表現は全国の小さな町から町へ、神戸では39本の舞台に立った。「グレイクリスマス」(斎藤憐作)でのラスト静かに朗々と憲法前文を読み上げたのは今でも耳に残っており、終生、人間の生きる素晴らしさを私たちに刻んでくれた。

とはいうものの、まだまだ日本に文化が満ちているとは言い難い。私たちは5月20日に、平田オリザさんを招いてお話を聞こうとしている。まさに「ピカソで国を守ろう」と文化の粋を満たして、平和の町を築こう。(たけし)

タイトルとはちょっと違って講演の中身は、アベ政治の「集団的自衛権は合憲」の解釈改憲以降の「平和国家」日本がどのように変化してきたか、という批判でした。

講演の感想を書きます。

22年12月16日、安保3文書(国家安全保障戦略、国家防衛戦略、防衛力整備計画)改訂の閣議決定が、現在の到達です。それは軍事予算を倍増させて「敵基地攻撃」も可能とするもので、外交も「防衛力の裏付けが必要」と平和憲法を否定します。

岸田首相は「憲法の枠内」という詭弁を弄しました。施政方針演説で「安保政策の大転換の決断」といいながら「いささかも変えるものではない」という矛盾を平然と述べています。

マスメディアはその中身の危険性、重大性を十分に伝えず、国会での議論を避ける非民主的な手法に対しても批判の声を上げていません。ですから国民の多くは「平和国家」の変節に気づいていない、という指摘がありました。

今回の地方選挙でも、民主主義と憲法を壊す政治に対する批判は小さいです。

そして防衛政策は戦略の変更から、それを執行する段階に入りました。南西諸島の自衛隊基地には攻撃的なミサイルが配備されようとしています。

国民には、それに沿った「決意」を求めています。

私たちは、安保政策等に反対しながら、地域の具体的な軍事化にも対応した運動が必要になっています。

「平和国家」が大きく変質していることを、国民の共通認識にすることが早急の課題だと思いました。(Q)

あれやあれ それやそれやで すむ夫婦 (空耳)
9条は 今も日本の よりどころ (空耳)
戦争に 備える国で 子を産むか (現妻)

y-onishi@live.jp

に投稿お待ちしております。

ジョー

2023年5月 発行：西神ニュータウン9条の会

〔HP〕 <http://www.ne.jp/asahi/seishin/9jyonokai>

〔連絡先〕 TEL 090-3359-0776 (大西)



HP にリンク



第15回記念のつどいに370名参加

文化による社会包摂—新しい広場としての劇場

平田オリザさんの講演から (2023/5/20 西神中央ホール)

オープニングは「あかし太鼓」。6人のメンバーには小学生もいて力強い動きと太鼓の響きで始まりました。その後、女性アンサンブル KIPLYU、神戸市役所センター合唱団による素晴らしい演奏に、心が洗われる思いでした。

平田オリザさんの講演は、芸術・文化の大切さを今の社会にどう繋げるかのお話でした。

まず、芸術文化観光専門職大学の取り組みが紹介され、小学校や大学で演劇を取り入れた授業が行われていること。そして、sympathy (同情)があっても、empathy (共感)がない、会話はあっても対話がない、というインパクトを受ける話で始まりました。

対話力 (相手への共感 empathy)こそ平和を作る力 「会話」は知り合い同士の話。「対話」は知らない人との話、知り合いでも価値観が違っておれば擦り合わせる事。第一次世界大戦後のパリ講和会議で日本は一言も発言しなかった。民主主義が育っていない国は対話ができず、他の国と平和を作る力がなかった。(この話は今の日本が、外国との対話の努力=外交努力をせずに軍事大国へ進む姿を言い当てていると感じた。)

コミュニティ形成としての芸術 今回の講演のテーマ。この30年間の国土の画一化で失ったものは何か。例えば、地域社会にとって必要な交流の場であった商店街が様変わりした。地域交流・文化の拠点であった場所がなくなり、経済や社会の成り立ちが変わってきた。そのことで若者や社会的弱者の居場所がなくなり、重層性のない社会になってきた。これからの居場所として新たな広場を作る必要性があると。その一つとして、劇場がある。人と人を結ぶ場でもある。

社会的弱者を文化につなげる社会を 日本では子どもを預けて、映画や劇場に行くことは少ない。ヨーロッパでは子どもを預けて、文化に接することが当たり前である。アートによるホームレス支援や失業者への割引制度もある。食事の提供だけでなく、文化に浴することが人間の尊厳にとって大切である。

日本においても社会的弱者を劇場・文化につなげる事が大切で、そのことが文化による社会包摂である。「無縁社会」、社会的孤立が陰惨な事故や事件を生んでいる。政府はコロナ対策でマスク2枚、10万円を配ったが、子ども世帯には絵本を届けてほしかった。憲法の25条、26条にふれ、健康で文化的な生活が守られていない、子どもに教育が保障されていないことを心配し、演劇はお互いを理解する力を培える、と締めくくられた。(竹の台 島田)

◆ 6月のつどい 6月18日(日)

西区文化センター 2階第3会議室

14:00~16:00 参加費 300円

「与那国島、石垣島、宮古島からの報告」

※詳しくはチラシをご覧ください

◆ ストップ大軍拡! 市民デモ in HYOGO

6月4日(日) 講演10時~ デモ13時~

◆ 7月のつどい

7月16日(日) 14:00~16:00

西区文化センター 2階第3会議室

参加費 300円 (学生さん無料)

「安保関連3文書について」

講師: 八木和也弁護士

(明日の自由を守る若手弁護士の会)

Act Now 1(イ千)の日行動 あなたもご参加を!

★毎月一回、西神中央駅前で「改憲No! 九条壊すな!」のアピール行動を続けています

★次回は7月1日(土) 16:00~17:00 (コロナの感染状況で変更もあります)

5月憲法集会が開催されました

5月3日(憲法記念日)に「戦争をさせない9条壊すな兵庫憲法集会」が、神戸・みなとのもり公園で開催されました。コロナの影響で大規模集会は3年振りとなり、29の護憲団体や労働組合、市民など約6000名(主催者発表)が集まり、当会からも17名が参加しました。冒頭、主催者を代表して羽柴弁護士が「今こそ私たちは、戦争を許さない、憲法9条を生かした外交を求め最後までがんばっていく」と訴えました。今回のメインスピーカーは松尾貴史さん(コメンテーターなどで活躍)。神戸市に生まれ育ったことに触れながら「憲法は国の枠組みであり国民が国家の権力行使を縛るものである」「戦争は権力者と一部の人が潤い、多くの人びとに甚大な被害を与え地獄を強制するものだ」「憲法9条に守られて国民の平和は維持されてきた」「軍備拡大を進め、憲法改悪を叫ぶ人たちに国を任せていいのか」と話されました。

最後に、長富日向さん(第25代高校生平和大使)が、集会アピールを凜とした口調で読み上げました。「私たちは近隣の国々に向けた多くのミサイルに囲まれながら日本さえ安全であればよいとは思いません。それは私たちと私たちが大切に思う人たちを戦争に導く危険と隣り合わせの[作られた安全]だからです」「戦わない非戦こそが多くの国の人びとの平和を保障するとして憲法前文と9条が人間の安全保障なのです」、憲法は「日本だけでなく平和な世界を作ることを目指しています」

集会の後、会場からフラワーロードを経て元町駅まで3コースに分かれてパレードを行いました。

文責(大西)



長続き させる秘訣は 多様性 (空耳)
「満額」で 貧しくなった 台所 (春闘・物価)
ミサイルを 拝みなさいと 三文書 (伝伝)

y-onishi@live.jp

に投稿お待ちしております。

第15回記念のつどいの感想

74名の方から感想を頂きました

★平田オリザさんの講演はいかがでしたか？

- ・便利で効率の良い社会は人と人のコミュニティを壊してしまっていることに気付かされた。人と人のつながりを意識した街づくり、人づくり経済的効果では成し得ない、アートはオンリーワン。
- ・兵庫県にも未来に希望を持てる大学が出来たなあーと思った。これからの大学は学ぶ楽しさが必要です。
- ・素晴らしい、考えてもみなかったこと芸術・文化の効果
- ・学ぶことの多い講演でした。今後の仕事・生き方に影響を受ける内容でした。
- ・子どもの教育における文化との接触の重要性！失業者へ文化が届く社会！素晴らしい！先生の大学へ孫を入学させたい。
- ・反対意見・異なった意見をよく聞き対話し共有できる場所を相互理解しようとする態度が社会に育っていないと思います。民主主義というのはそうしたことが基本だと考えています。また、文化水準がどんどん低下しているようにも思います。例：書店の減少
- ・娘にも聞かせたかったと思った。何回も聞きたい内容だった。シンパシーがあってもエンパシーがない孫。ドイツ・日本・イタリアがファシストになったことなど聞けて良かった。

★神戸市役所センター合唱団の演奏はいかがでしたか？

- ・「こわしてはいけない」「なぜですか」の言葉がズンと胸にきました。いのちの大切さ、戦争の無残さをあらためて感じました。「あかし太鼓」がすばらしかった。こども達の力強い演奏に未来を感じました。こども達のためにもよい社会をと願わずにいられませんでした。
- ・歌詞がダイレクトで驚きましたが、それを今の時代にしっかり表現されている皆さんに心から拍手します。
- ・すばらしい演奏ありがとうございました。「いい声」で心に響きました。また、演奏会があれば行きたいと思いました。

今後のご希望など自由に

- ・このようなお話を聞いた後、グループなどでディスカッションしたいですね。いつも素晴らしい企画をありがとうございます。
- ・トイレ休憩をもう一回、高齢者はトイレ近い。



2023年6月発行：西神ニュータウン9条の会

[HP] <http://www.ne.jp/asahi/seishin/9jyonokai>



[連絡先] TEL 090-3359-0776 (大西)

HPにリンク

大軍拡反対、憲法改悪を止めよう ～大江健三郎さんの志を受け継いで～ 5月28日「9条の会全国交流集会」に参加して

9条の会全国交流集会が5年ぶりに開催され、32都道府県から約300名が出席。冒頭挨拶で小森陽一事務局長は、3月に亡くなられた大江健三郎さん(九条の会呼びかけ人)の9条にかけた思いにふれながら「G7-広島サミットで被爆者の思いを無視し核抑止を正当化する広島ビジョンが発表されたことは断じて許されない。9条改悪を目指す岸田政権の本質だ」と述べ「岸田政権の大軍拡は、専守防衛を捨て憲法の平和主義を否定し国民のいのちと暮らしを危機に追い込み増税に走ろうとしている。今こそ9条の会の活動が大きな役割を担っている」と呼びかけた。交流集会には、北海道から熊本までの24団体が工夫をこらした活動の報告を行ない、活動の経験交流となった。

- ・札幌栄東9条の会／シベリヤ抑留者、広島被爆者、満州引揚者など7人で設立 若い人へ平和バトンを繋ぐため他団体と分担し7つの高校前で宣伝活動
- ・埼玉溪流9条の会／右に釣り竿、左に憲法 河川の放射能を測定 趣味を活動に
- ・九条かながわの会／県内17団体と連絡会 米軍の横浜ドックに反対 事務局長に若手弁護士 若者が集会の企画段階から参加
- ・東京／九条の会中野 会員にポスターを公募「銃に花を9条に翼を」「憲法は戦争が残した平和への羅針盤」を各500部印刷 米口大使館前で英文のポスター掲示
- ・東京／千住九条の会 9条の碑を建立(球体の碑)
- ・東京／葛飾教職員九条の会 成人の日に宣伝 今年6月全国教職員九条の会を設立
- ・九条の会東京連絡会 600の九条の会が参加 高齢化で休止の団体もあり半減単独運営から他の九条の会と合流も
- ・静岡／世界九条の会の開催を提案 リニア新幹線に反対/原発1基分の電力消費
- ・長野／全国首長九条の会元阿智村長岡庭さん 満蒙記念館 8000人が満州開拓へ半数が帰国できず 自治体が戦争を推進、平和は地域から支える必要 住民に漠然とした戦争への不安ありそれに応える運動を
- ・滋賀／全国首長九条の会平尾米原市長 平和は自治体の問題である 非核平和都市宣言を実現 忠魂碑を遺族会と協議し廃止、民間人戦死者も含め平和モニュメントを建設 2度と遺族会を作らない
- ・京都／九条守ろう亀岡の会 隣町に長距離ミサイルの「祝園弾薬庫」配備に反対
- ・大阪／九条の会豊中いちばん星 運営委員は全員女性で活動継続中
- ・兵庫／西神ニュータウン9条の会 「平和な街に戦争はいらない」17年の活動報告



交流会終了後「九条の会」世話人の池内了さんら6氏から挨拶が行われ、最後に事務局の高田健さんが「文字通り九条の会は正念場にある。改憲を阻止し世論を高め運動を強め大軍拡を止めよう。今日を九条の会の再出発にしよう。」と呼びかけた。集会内容はYouTubeでも視聴可能
西神ニュータウン9条の会 (大西) 記

◆ 7月のつどい 7月16日(日)
西区文化センター 2階第1会議室
14:00～16:00 参加費 300円
「安保関連3文書について」
講師 八木和也弁護士
※詳しくはチラシをご覧ください

◆ 8月のつどいはありません

◆ 9月のつどい 9月17日(日)「原発稼働を巡る現状」

Act Now 1(イチ)の日行動 あなたもご参加を!

★毎月一回、西神中央駅前「改憲No!九条壊すな!」のアピール行動を続けています

★次回 は8月1日(火) 16:00～17:00 (コロナの感染状況で変更もあります)

6月定例のつどい報告

南西諸島の軍事要塞化

「自衛隊のあとには米軍が
そして戦争がやってくる」

種子島、奄美大島、沖縄本島から台湾までつづく南西諸島は、中国へ向けた弧を描く「盾」のような配置にあります。2016年に安保法制が施行され、与那国島に陸上自衛隊が配備されるまで、ここは自衛隊の「空白地域」でした。奄美大島、宮古島にミサイル部隊が配備され、昨年12月に安全保障3文書が閣議決定後、石垣島にもミサイル部隊が配備され、先島諸島の自衛隊員は2000人を超えています。そのような中、「日本 AALA 連帯委員会の石垣島・与那国島・宮古島をめぐる平和交流の旅」が行われました。参加された本会会員の島田さんによる報告会が6月18日に開かれ、33名の出席がありました。

「飛行機に乗ってばかりいた」という忙しい旅のようでしたが、「敵基地攻撃」という「矛」の準備がすすむ緊迫感が、現地で報道される「陸自車両、駐屯地に搬入」(八重山毎日新聞)、動画で伝える TV ニュースなどから伝わってきました。また、アジア太平洋戦争で、軍の命令によってマラリアの汚染地帯へ「強制避難」された多くの島民が命を落とした「戦争マラリア」も初めて知ったことでした。日本軍は沖縄県民を守らなかったことを良く知っている沖縄県民が、自衛隊の配備を受け入れざるを得ない実情は深刻なようです。県民の分断という難しい問題を抱えながらも、島々を再び戦場にさせない現地の人たちの運動の様子も紹介されました。

9条の理念を踏みにじった武力による威嚇では、相手のより大きな武力の動員を生むだけでしょう。また、深刻な分断は沖縄にとどまらないでしょう。島田さんもまとめられたように、関係諸国を巻き込んだ「包摂的」外交でこそ平和を維持することができることを改めて認識しました。(榎野台KH)



ジョー

第15回記念のつどいの感想

第2段

★平田オリザさんの講演はいかがでしたか？

- ・講演は初めてでした。良い内容のある講演でしたが時間が短かくて残念でした。
- ・大変有意義ですばらしかった。リベラリズムの新しい型を実施されているようです、次の世代に受け継いでほしい。
- ・豊岡がどんどん活気ある魅力的な地になっていく様子がよく伝わりました。「オンリーワン」の大学が兵庫県にできたこと誇らしいです。神戸の小中学校でも演劇の取り組みが実現できることを願ってます。学園都市に月1回来られているとのことなので、西神へぜひまた来て頂きお話を伺いたいと思いました。

★神戸市役所セクター合唱団の演奏はいかがでしたか？

- ・「こわしてはいけない」「なぜですか」が特によかったです、また聞きたいです。
- ・こだわりのある選曲をよく歌いこなされていました。
- ・素敵な演奏でした。私も25年間市民団員として歌わせていただきましたが、久しぶりに…みんな平等に年をとりました。若い人に継承することも考えて頂きたいですが。
- ・無言館に行かせてもらったこと思い出しました。平和への祈りを新ためて求めて行きたいと思います。
- ・感動して涙がでてきました。素晴らしい歌声でした。

★今後のご希望など自由に

- ・次は内田樹先生にもお話して頂きたいです。
- ・講演を聞くだけで受身の学習会がほとんどです。まさに対話のない聴衆向けの講演会が市民運動の限界を作っているように思います。第2部でワークショップ型の対話ができる参加者主体の分科会で感想を述べあえたらもっとよいと思います。

ありがとう

武器持てば 撃ちたくなるのが 人の常 (空耳)
故郷は 住めず帰れず 再稼動 (伝伝)
「骨太」と 言って国民 瘦せていく (現妻)

y-onishi@live.jp

に投稿お待ちしております。

2023年7月 発行：西神ニュータウン9条の会

〔HP〕 <http://www.ne.jp/asahi/seishin/9jyonokai>

〔連絡先〕 TEL 090-3359-0776 (大西)



HPにリンク

『平和の種まき』を次世代につなげよう

「原爆から1キロ以内にいた人は、火傷でみんな死んだんよ。2キロ以内にいた人も内臓がやられて病気になったんよ。3キロ以内のほとんどの建物が壊れたんよ。ここは（実家）、原爆から4キロじゃけえ、助かったんよ」

小学校5年生の時に亡くなった祖母が何度も同じ話をするから、うなずきながら聞き流していましたが（今では、ちゃんと聞いておけばよかったと後悔しています）。小学校では、毎月のように平和学習が行われ、遠足と言えば平和公園、お昼からは語りべさんの体験談を聞くというお決まりコース。小学校の高学年になると、うっとうしく感じていました。

時が経ち、神戸市で就職して、子どもが小学校に通い始めて知ったのは平和学習が広島だけで行われていたということでした。日本国中の小学校で行われていると思っていた私は、「なんで平和について教えてないんだ」という感情になりました。帰省した時には子どもたちを原爆ドームや平和祈念資料館に連れて行き、「戦争の悲惨さ」について教えました。自分でも不思議ですが、小学校卒業後 20 数年間の経験の中で「平和の尊さ」を感じるようになっていたのだと思います。

広島を離れるときに、母親から「広島で生まれた者は、カープの応援と8月6日の黙祷だけは忘れちゃいけないよ」と言われたことを覚えています。カープの応援は冗談としても、年に1回、8月6日の8時15分の1分間、目を閉じ平和を祈ることは続けています。おそらく、記憶にないころから母親の横で一緒にやっていたのでしょう。

小さい時に祖母や両親、学校の先生がまいた種が時間をかけて花を咲かせ、今では次の世代に「戦争の悲惨さ」や「平和の尊さ」を繋がないければと思っています。まいた種が芽をだし花が咲くかは、その人が歩むこれからの経験によりますが、種はまいておかなければ花は咲きません。私に「平和の種」をまき、育ててくれた両親に感謝し、祖母の分まで親孝行したいと思います。

（春日台 K）

◆ 9月のつどい 9月17日（日）

西区文化センター 2階第1会議室
14:00~16:00
参加費 300円（学生さん無料）

「原発再稼働の現状と人権」

講師 小橋かおるさん

（さよなら原発神戸アクション共同代表）

※詳しくはチラシをご覧ください

◆ 8月のつどいはありません

◆ 「高校生の描いた原爆絵展」

8月15日（火）～17日（木）
西区文化センター1階ギャラリー
10時～16時（15日は12時から）

＜主催＞原水爆禁止西区協議会

◆ 「平和のための戦争展」

8月18日（金）～20日（日）
西区文化センター1階ギャラリー
＜主催＞医生協西神支部

Act Now 1(イ千)の日行動 あなたもご参加を！

★毎月一回、西神中央駅前「改憲 No! 九条壊すな！」のアピール行動を続けています

★次回は9月1日(金) 16:00~17:00 (コロナの感染状況で変更もあります)



アンネのバラの教会 (アンネ・フランク資料館)

ナチスのホロコーストによって殺害されたアンネ・フランクの「アンネの日記」ご存じですか。その「アンネの日記」を記念して建てられている「アンネのバラ教会」が西宮市甲陽園にあります。



オランダの隠れ家にいたアンネの家族で唯一生き残った父オットー・フランクとの交流の結果建てられた「アンネのバラ教会」。玄関前にはアンネのバラが植えられており、その真ん中にはアンネのブロンズの銅像が建てられています。玄関を入った2階には高い天井があり、礼拝堂が大きく広がっています。天井はアンネの隠れ家のように作られていて、周囲には大きな模造紙に大きな字で、アンネの隠れ家の生活やホロコーストの説明がわかりやすく丁寧に書かれています。また、アンネの生涯にわたる写真も展示されており、訪れる多くの子どもに平和を心から願う人になってほしいという思いが伝わってきます。さらに、礼拝堂の前に置かれているアンネが使った形見(遺品)の「スプーン」「靴バラ」は私たちにアンネの生きたかった想いとアンネを葬り去ったホロコーストへの怒りがわいてきます。

アンネは日記の中に「私は世界と人類のために働きます」と書き残しています。今こそ「世界と人類のために」平和を求めて働きますと思わせてくれます。

<参考>

場所： 阪急神戸線夙川駅乗換
甲陽園下車徒歩7分

見学： 無料 毎土曜日午後1
時から5時まで

予約(館長-牧師のガイドあり)が必要、団体は土曜日以外も受付



ジョー
ウ

憲法9条で日本を守るかⅡ

～翼賛体制に楔を打ち込むために～

講師=八木和也(明日の自由を守る若手弁護士会)

対話で変えていこう

西神ニュータウン9条の会は7月16日に標記の学習会を行いました。21名の参加がありました。私の感想を交えながら報告します。

2022年末に安保三文書が閣議決定されて、日本の国の形が大きく変わり始めました。

八木弁護士は「準戦時体制下にある」といいます。憲法9条の下の「平和主義」「専守防衛」から「軍事力による抑止」に転換したのです。

安保三文書がしめした「ウクライナは十分な軍事力を持っていないからロシアに侵略を仕掛けられた」を国民は受け入れました。「国を守る」ために軍事費を倍増し、2027年までに43兆円費やすことを容認しています。

「軍事大国はいや」「米軍の戦争に巻き込まれるのはいや」というのが国民多数の意見でしたが、それが変えられています。

それは、テレビで流されるウクライナの惨状や繰り返される北朝鮮のミサイル発射を、政府が利用して、国民の「恐怖」をあおり、軍事大国への転換を受け入れる精神構造を作り上げたためです。

講師から、中国を敵視する政策は、お互いの経済活動をみると、愚かで不合理であることを実証する十分な説明もありました。平和な暮らしを守るためには共存共栄しかありません。

この情勢をどうやって変えていくのか、我々に求められる活動です。

それは一人一人が、安保政策で意見が異なる人とも「軍事力だけでは平和な国際関係はつくれる」という対話を積み上げ、冷静な国民世論をつくることです。(Q)

銃口に 平和を祈り 花を挿す (伝伝)
「武」という字「戈」を「止」めると 書くけれど (空耳)
すだれ越し 風が揺らいで 白日傘 (現妻)

y-onishi@live.jp

に投稿お待ちしております。

2023年8月 発行：西神ニュータウン9条の会

[HP] <http://www.ne.jp/asahi/seishin/9jyonokai>



HPへリンク

自分の言葉で「原爆」を語れる首相は現れるか？

今年も8月が終わろうとしている今日この頃、広島・長崎の原爆投下から78年の6日・9日には原水爆禁止世界大会や国際会議が開かれました。広島出身ということで注目された岸田首相の平和記念式典でのあいさつは、例によって核兵器禁止条約については一言も触れず、サミットでの「広島ビジョン」を成果と喧伝し、サーロー節子さんはじめ多くの被爆者の思いを裏切るものでした。そんななか、

私たちにもできることがあります。

自分の思いを伝える前に相手の気持ちを考えること。

友だちの良いところを見つけること。

みんなの笑顔のために自分の力を使うこと。



「今、平和への思いを一つにするときです。

被爆者の思いを自分事として受け止め、自分の言葉で伝えていきます。

身近にある平和をつないでいくために、一人一人が行動していきます。

誰もが平和だと思える未来を、広島に生きる私たちがつくっていきます。」

(一部掲載しました)

と、広島市内の小学生が述べた「子ども代表・平和への誓い」は、改めて平和運動の原点を教えてくれたような気がします。

ここ数年、安倍元首相、菅元首相など歴代の首相は、アメリカの核の傘に守られていると核兵器の全面禁止を言えず、唯一の被爆国でありながら抽象的な「核なき世界」を発信するだけです。いつになったら、核兵器全面禁止を堂々と世界に発信する首相が現れるのでしょうか？ いや、そのような首相を私たち市民の運動で、政権交代で実現させなければなりませんね。

(美賀多台・TK生)

◆ 9月のつどい 9月17日(日)

西区文化センター 2階第1会議室

14:00~16:00

参加費 300円(学生さん無料)

「原発再稼働の現状と人権」

講師 小橋かおるさん

(さよなら原発神戸アクション共同代表)

※詳しくはチラシをご覧ください

◆ 10月のつどい 10月15日(日)

西区文化センター2階第3会議室

14:00~16:00

「軍拡・九条・平和 市民活動の役割」

～問題提起と意見交流～

参加費 300円(学生さん無料)

◆ 11月のつどい 11月19日(日)

西区文化センター2階第1会議室

14:00~16:00 (内容は未定)

Act Now 1(イチ)の日行動 あなたもご参加を!

★毎月一回、西神中央駅前「改憲 No! 九条壊すな!」のアピール行動を続けています

★次回は10月1日(日) 16:00~17:00 (コロナの感染状況で変更もあります)

終戦の日、 「失敗の本質」について考えた

「失敗の本質」(1984年ダイヤモンド社)という名著があります。研究者6名の共著でノモンハン事件から沖縄戦まで敗戦の連鎖の背景に、失敗の本質に向き合わない旧日本軍の弱さがあったと分析しています。その弱さは戦後に引き継がれ、バブル後の産業の低迷や不祥事の一因にもなっていると趣旨で、企業研修でも活用されてきました。

僕にも苦い経験があります。現役時代、A&Bの2目標を掲げた国プロジェクトを担当し、Aは成功したものの、Bは失敗でした。「プロジェクト全体としては失敗」との自己評価を持って神妙に出頭したのですが、お役人から「こういうのは、概ね成功というんだよ」と諭されました。「A&Bが目標だったので、残念ながら失敗では？」と反論すると、「俺の顔に泥を塗る気か！」と一喝されました。

以来、失敗した目標Bに再挑戦する機会は二度と訪れませんでした。

ノムさん語録に「勝ちに不思議な勝ちあり、負けに不思議な負けなし」という名言があります。負けには必ず原因があり、しっかり向き合えば、強くなれるという名将の智恵でしょうか。実際、78年前の8月15日から数日間、市ヶ谷の陸軍省、霞が関の海軍省から煙が絶えなかったことが語り継がれています。なぜあのような無謀な戦争を始め、原爆が落とされるまで戦争を止められなかったのかを掘り下げるためのつづさな記録が永遠に失われた瞬間でした。

(タイガー)



森村誠一さんを偲んで

推理作家森村誠一氏が7月24日に亡くなった。90歳だった。松本清張氏が亡くなった後、ポスト清張は森村誠一だった。一般的には、「社会派」と呼ばれているが、探偵小説の世界から人間の生活をリアリティに描いた作家であった。

あの「人間の証明」は、「読んでから見るか、見ながら読むか」はやや、角川流のメディアに乗り過ぎた感があったが、あの「母さん、僕のあの帽子、どうしたでしょうね」はこの年の流行語になったことは今でも覚えている。しかし、何といたっても森村誠一氏の最高の評価は、731部隊を描いた「悪魔の飽食」であった。人体実験をはじめとする残酷さは日本の軍国主義の本質を見事に描いた作品であった。

さらに私が大きく評価したいのは神戸市役所センター合唱団と池辺晋一郎氏とともに、音楽化されたことであった。しかも、それは全国の合唱団の手によって「悪魔の飽食」が日本中に広がっていったことである。森村誠一氏の平和への貢献度は計り知れない。氏の平和・反戦への原点は埼玉で12歳の時の熊谷大空襲に遭遇したことであった。さらに「熊谷大空襲を忘れない市民の会」への賛同も市民目線をも大事にしている作家であった。

最後に、神戸市役所センター合唱団企画・阪神大震災鎮魂組曲「1995年1月17日」(池辺晋一郎作曲)の詩作も忘れてはならない。(たけし)

ジョー

血まみれの 九条がいた 武器見本市 (伝伝)
夏の雄 蝉さえへばる 酷暑かな (空耳)
「安全」と 国が言うほど 増す不安 (現妻)

y-onishi@live.jp

に投稿お待ちしております。

2023年9月 発行：西神ニュータウン9条の会

[HP] <http://www.ne.jp/asahi/seishin/9jyonokai>



HPへリンク

辺野古・最高裁判決は正義に反する

沖縄県が辺野古・大浦湾での埋立工事の変更を「不承認」としたことで、国(政府)との間の裁判となっていた。最高裁はこの9月4日、また

もや国の側にくみする判決を言い渡し、埋立続行のお膳立てをした。

そもそも、沖縄県が辺野古移設に反対する理由は、①加重な基地負担—在日米軍基地面積のうち沖縄県の割合が70.27%も ②民意— 辺野古基地建設に反対する県民世論が多数 ③自然環境— 絶滅危惧種であるジュゴンなど多様な生物への悪影響 ④工事の長期化のため、普天間飛行場の一日も早い危険性除去につながらない、などであり、この主張は翁長知事以来一貫している。

今回の訴訟の経過は、大浦湾の軟弱地盤が明らかとなって防衛省沖縄防衛局が沖縄県に埋立工事変更の承認を求めた → 県は地盤の安定性等が十分に検討されていないとして承認しなかった → 防衛局は国土交通省に県の「不承認」に不服申立てをし是正を求めた → 国土交通省は県の不承認を取消す「裁決」をし、さらに県に承認するよう「指示」した → 県はこの「裁決」「指示」が違法・無効であるとして訴訟に出た。

県が訴訟で理由の軸としたのは、防衛局と県との紛争について、防衛局と同じ内閣のもとにある国土交通省が「裁決」したのでは、選手と審判を同じ人物がかねているようなもので公正さに欠ける、という点であった。国土交通省は行政法規に則った適正な判断であると反論していた。

行政法規の解釈適用は判断する者の価値観によって決まる場合が多い。太平洋戦争における悲惨な被害を背景にかつ地方自治の本旨を重くみる沖縄県の主張に「正義」をみて法規を柔軟に解釈適用するか、行政の統一・安定・迅速などに価値の優勢をみて法規を杓子定規に適用するか、によって異なってくる。

残念ながら、今回も最高裁は、辺野古移設の是非や埋立の安定性などに検討を加えないまま、行政法規を型どおりに適用して国土交通省の「裁決」「指示」を是認し、県の訴えを退けた。

最高裁の姿勢は、辺野古移設をめぐる玉城知事がこれまで起こした幾多の訴訟と同じである。それはまた、砂川訴訟において統治行為論を持ち出して安保条約の違憲性判断を回避した、あの法の番人たる責任の放棄と変わらない。

玉城知事は逆流のなか、9月19日、ジュネーブでの国連人権理事会で、辺野古移設工事強行の非を世界に向けて力強く訴えた。私たちの辺野古基地反対の闘いは続く。 (伊東武是)

- ◆10月のつどい 10月15日(日)
西区文化センター2階第1会議室
14:00~16:00 参加費 300円(学生さん無料)
「この街で暮らす この街で生きる
人とのつながりを求めて」~会員からの報告~
「沖縄、再び戦場へ」予告編の上映もあります。
- ◆11月のつどい 11月19日(日)
西区文化センター2階第1会議室(講師折衝中)

- ◆11月3日(祝)神戸憲法集会
西区文化センターなでしこホール
13:30~ 講演 水島朝穂氏
- ◆11月24日(金)総がかり集会 in 兵庫
長田区文化センター 大会議室
18:30~ 講演 前泊博盛氏
- ◆11月25日(土) 14:00~
九条の会がくえん長谷川義史講演会
ユニティ・セミナー室4



「Act Now 1(イ千)の日行動 あなたもご参加を！」

★毎月一回、西神中央駅前「改憲 No! 九条壊すな!」のアピール行動を続けています

★次回は11月1日(水) 16:00~17:00 (コロナの感染状況で変更もあります)

未宗澄子さんの思い出

93歳とは言え8月28日の突然の訃報には驚きでした。コロナ禍の介護施設での会話は衝立を経ての筆談でしたが文章をかざすや否や電光花火の即答で賢さはそのまま!!。

退職して間もない頃「9条の会をつくりませんか？」と訪ねて来られました。2004年に大江健三郎さんが「九条の会」を発足しアチコチにできていましたので「いいですよ。うちの家を使ってもらっても」と言ったのが運の尽き、まもなく会長の高島仟さん、作家の浅黄斑さんら15名の発起人を探されしかも口八丁手八丁(?)優秀な書記娘さんの麻希ちゃんまでいていつのまにか私が事務局長に。

ワイワイ毎週のように集まり2006年11月25日に松山弁護士を招いて結成総会を45名で。憲法を御旗に何でもできると会員中心の旅行記、お芝居や文学歴史、美容、藤崎さん寄贈の「わたしたちの日本国憲法」全30巻上映、2007年にはハーモニカ隊を結成し近隣9条6団体と共に学園都市でヴェトナム戦争帰還兵「アレン・ネルソン講演会」を209名で等々楽しい思い出ばかりです。

2010年11月3日、娘さんの麻希子さんを48歳肺癌で亡くされたのは私たちにとっても大きな痛手でしたがその志を継いで今は新しい方が新しいやり方で脈々と続いています。「私のなかの戦争」(戦争体験記)第一集で語られた女学生時代は校庭で芋と松根油作りで終わり戦後小学校教師としてご夫妻共に反戦平和を貫き夫や娘さん亡き後も気丈に地域の運動を支えてこられたのは紛れもなく未宗澄子さんでその燎原の火は決して消えることはありません。ありがとうございました。合掌。(市原)

9月つどい「原発再稼働と人権」

さよなら原発神戸アクション共同代表の小橋かおるさんのお話をききました。

今年7月、高浜原発1号機が12年ぶりに再稼働。国内最古で、運転開始から48年も経過しています。そして、40年を超える高浜2号機も、9月15日に再稼働。古い原発が続々と再稼働し、その怖さを話されました。私たちの住む地域は、その原発から90キロの範囲であり、原発事故が起きれば、被爆する可能性があります。対策も取られていません。

なぜ、これほどまでに、私たちの暮らしも人権も守られないのか。国内の福島原発の避難民の実態から、人権が守られていないことを話されました。「国際人権」という観点から、日本が世界から取り残されていることを、藤田早苗さんとの出会いから学んだそうです。(「武器としての国際人権」集英社)「国際人権」という言葉を初めて聞き、理解するには、学びが必要だと思いました。

参加者からは、「本当の意味の人権が語られることが、日本では少ないので、良かったと思います」「限られた時間に、数多くの問題点に触れたことには、評価します。少し、論点をしばって重点をより強調してもよいと思います。原発問題に国民として、どう具体的に対応すればよいのか、人権という抽象的論点を現実の実体験を基盤として、具体的論点を熱を込めて、我々に訴えていただければ、我々の内面も浮き立ちます」他、多数の感想が寄せられました。22名の参加でした。(K)

ジョー
可

タイガース あれよあれよと アレをした(空耳)
ちと脅かす かかりつけ医の 親心 (伝伝)
風車(かざぐるま) 馬の力で 廻すひと (ある議員)

11月のお題は「文化の日」
y-onishi@live.jp
に投稿お待ちしております。

月のお題を
設けました
自由な句も
OKです

2023年10月 発行：西神ニュータウン9条の会

[HP] <http://www.ne.jp/asahi/seishin/9jyonokai>



HPへリンク

原発報道メディアは隠蔽に加担してきた

～「処理水」海洋放出問題などを考える～に参加して



「10月21日・国際反戦デー」-1960年代後半、日本労働組合総評議会「総評」が呼びかけ、社会党、共産党が統一して参加し、世界で初めて労働組合がベトナム反戦デーの集会に参加したことを思い出しながら、「NHKとメディアを考える会（兵庫）」主催の「原発報道メディアは隠蔽に加担してきた～処理水海洋放出問題を考える～」の講演会に行きました。

お話は七沢 潔さん（ジャーナリスト・研究者・元NHKディレクター）冒頭から今年8月「処理水」の海洋放出開始をメディアは大々的に報じたその「処理水」を当然のように使っている言葉のありようについて疑問を投げかけられた。「処理水とは原子炉建屋に侵入した地下水がデブリに触れて出てきた汚染水からALPS（多核種除去装置）でセシウム、ストロンチウムなどを除去しトリチウムが残る廃水。薄めるから海に放出しても安全という。しかしそれは本当か」と。かつて東電は増え続ける汚染水の処分方法を検討する専門家会議にも情報は提供せず、2018年、共同通信が報道した後の公聴会で市民に突き上げられ公表せざるをえなくなった。といくつかの地元住民への説明がなかった事例を述べながら、「IAEAが監視するから大丈夫」というが抜け穴はないのか、あるべき姿の実現を疑いもせず信ずる事はいいのかと問いかけられ、「処理水」は「ALPS処理汚染水」と呼ばれるべきだと述べられた。他にアメリカサウスカロライナ大学のムソー教授の「トリチウムによる被ばくリスクと危険性を評価する情報が圧倒的に不十分」という例などを引き、メディアはいつからなぜ、処理水という言葉を受け入れたのか？と問題指摘された。

そして、「2年半前の菅首相の海洋放出決定後、汚染水は使われなくなった」「NHK会長が衆議院法務委員会で問責された」問題等についてのお話もあり、「ディレクター（私）とプロデューサーがJR東海出身の松本正幸会長から『厳重注意』を受けた」などにも言及され、さらに、「自衛隊に原子炉の管理を任せたい」などの問題点も述べられた。

最後に原発事故から何を学ぶべきかを提起された。それは全く私も同感で、「東電刑事裁判を実現したのも市民団体の粘り強い活動だった」と指摘されたように、「市民とメディアの監視、抵抗が事態を打開する」と「事故に学ばない国や電力会社ではなく市民の行動が『真実』を明らかにすること。そして市民の関心の持続こそがメディアを再生させられると」締められた。まさに、「あいまいな」市民でなく、言葉にこだわる市民の目が求められていると感じられた集会でした。集会参加者は120余名で、相変わらず高齢者が目につきました。（たけし）

- ◆11月のつどい 11月19日（日）
西区文化センター2階第1会議室
14：00～16：00 参加費 300円（学生さん無料）

「会員による海外レポート」中国とネパールからの報告
※詳しくはチラシをご覧ください

- ◆12月のつどい 12月17日（日）
西区文化センター2階第1会議室
14：00～16：00（内容は未定です）

- ◆11月3日（祝）神戸憲法集会
西区文化センターなでしこホール 13：30～
- ◆11月24日（金）総がかり集会 in 兵庫
長田区文化センター 大会議室 18：30～
講演 前泊博盛氏 ※チラシをご覧ください
- ◆11月25日（土）九条の会がくえん主催
絵本作家 長谷川義史さん講演会 参加費 1000円
学園都市ユニティ・セミナー室4（2階）
チケットご希望の方は本田まで連絡下さい
Tel (090-5494-9622) ※チラシをご覧ください

「Act Now 1(イ千)の日行動にご参加を！」

★毎月一回、西神中央駅前「改憲No.9条壊すな！」のアピール行動を続けています

★次回は12月1日(金) 16:00～17:00 (コロナの感染状況で変更もあります)

“10月つどい”を聞いて

1日行動 若者が飛び入り参加

10月1日の1の日行動の時、高校三年生の二人が、飛び入り参加してくれました。

二人は、私たちのそばで、じっと見ていました。参加者が声をかけると、「何してんですか？」と質問されたので、「憲法9条を守る為に、署名活動やいろいろなことしてるんですよ」と説明しました。対話がはずみ、自分たちのことも話してくれました。

二人は、高校三年生で、一人は、沖縄の大学を受験すること。もう一人は、山口の大学受験の前に、広島原爆資料館へ行ってきたことなど話してくれました。二人は、マイクを握ってスピーチをしたいということで、原稿を読んでもらいました。

若い人が参加すると、とても、明るく楽しい雰囲気になりました。

15日のつどいも誘いました。二人を見送りが、こんなこともあるんやね」と参加者が、元気になった1日アクションでした。

(K)



冒頭、三上智恵監督の来年公開映画「沖縄を再び戦場へ」の派生作品を鑑賞しました。2021年、宮古島の景勝地・保良で弾薬庫完成、22年避難シェルター建設、戦車が公道を我が物顔に走り、日米軍事演習など、「戦時体制化」をひしひしと感じました。

一方、穏やかな西神に住んでいることに感謝しながら、南西諸島と何か連帯できないかと模索しつつ、「人とのつながりを求めて」、3名の方に話題提供を戴きました。

まず、竹の台の宮下さんからは、退職後のシルバーカレッジやいなみ野学園での生涯学習、神戸市委託の友愛訪問、ボランティア、最近では、自宅サロン(500円会)等地域での多彩なつながり活動を紹介戴きました。そのバイタリティに賞賛の声が上がりました。

次に、美賀多台の羽田さんからは、企画中の「みんなの図書館づくり」構想を披露戴きました。空き家等に図書館を設けて、マイ蔵書を持ち込んでもらい、本をキーに繋がっていこうというアイデア。SNSのリアル版！陽だまりのような図書館を目指したいと。

最後に、春日台の大西さんより、今年5月に東京で開催された9条の会・全国交流集会での各地の会のユニークな取り組みを紹介戴きました。高校前でのPR(札幌)、若手が企画段階から参加(神奈川)など若者に注目した活動、満蒙記念館(長野)や平和モニュメント設置(米原)なども参考になりました。

地域は譲れない生活の拠点。地域と人のつながりが市民運動の出発点であることを改めて認識したつどいでした。(タイガー)

ジョー
る

武器商人 表の顔は 常任理事国 (伝伝)
万博が 賭博にバケる 威信(維新)かな (空耳)
村度(そんたく)と 賃上げ物価の 下に行く (連合)

12月のお題は「熱爛」
y-onishi@live.jp
に投稿お待ちしております。

月のお題を
設けました
自由題も
OKです

2023年12月 発行：西神ニュータウン9条の会

[HP] <http://www.ne.jp/asahi/seishin/9jyonokai>



HPへリンク

イスラエルはガザ侵攻をただちにやめ、
これ以上の民間人・子どもの犠牲者をだすな



ハマスのイスラエルへのテロ攻撃に対するイスラエル軍のガザ地区への空爆・地上軍の侵攻が続いている。ガザ地区の病院・難民キャンプへの攻撃などによって、死者は1万人を超えた。(11/8 現在で40%は子ども。) イスラエルはハマスを根絶するまで攻撃を続けるとしていて、ガザ地区はイスラエルによるジェノサイド(集団殺害)の危機にある。アラブ諸国だけではなく、欧米・日本でも市民たちが即時停戦の声を上げ、国連総会でも「敵対行動の停止につながる即時かつ持続的な人道的休戦」を求める決議が121か国の賛成で採択された(日本は棄権)。一刻も早い停戦が求められている。

第一次世界大戦までは、パレスチナはオスマン帝国の支配下にあり、アラブ対ユダヤの対立はほとんどなかったとされている。第一次大戦後イギリスが国際連盟の委任統治を続けていたが、パレスチナにおけるユダヤ人の居住地建設を認めたバルフォア宣言を根拠に、ユダヤ人の移住が増え、ユダヤ-アラブの軋轢が強くなった。手に負えなくなったイギリスはパレスチナ統治を断念し、国連はパレスチナを①ユダヤ人国家②アラブ人国家③エルサレムを国際管理都市とする分割案を決議した(1947年)。しかし、この案はアラブ、ユダヤ2民族の自決権を認めたが、人口30%、所有地6%のユダヤ人に57%を与えるという不平等なものであった。そのため、アラブ諸国が反発し、1948年のイスラエル独立宣言後、第1次中東戦争が勃発した。それに勝利したイスラエルは国土を確保し、その後の第2次~4次中東戦争をへて、パレスチナ人の自治区はヨルダン川西岸とガザ地区に限られてしまった。その後も増加する入植者のために、イスラエルはヨルダン川西岸へも入植地を拡大し、ガザ地区は何回かの地上侵攻の後に封鎖され「天井のない監獄」とよばれる過酷な条件に置かれるようになった。

イスラエルの国際法違反の侵略・残虐行為は、このように歴史的なもので、今回また「自衛」を口実に行われている。これにたいして、欧米、特にアメリカは非難することなく支持してきた。日本を議長国として開かれたG7外相会合は共同声明で、ハマスの攻撃は非難するがイスラエルの「自衛権」を認め、民間人の無差別殺傷を行っている同国の行動を正当化している。日本はこのようなアメリカ追従の外交ではなく、イスラエルともパレスチナとも話のできる立場を生かして、これ以上の犠牲を止めるための即時停戦、更にイスラエル・パレスチナ双方の生存権を認めるような解決に向けた仲介にあたるべきではないか。

(樫野台KH)

◆12月のつどいはお休みです。

◆1月のつどい 2024年1月21日(日)
西区文化センター2階 第1会議室
14:00~16:00 参加費 300円(学生さん無料)
(内容は未定です。1月号でお知らせします。)

◆「第16回記念のつどい」のお知らせ

2024年4月20日(土) 13:30~ なでしこホール
講談師 神田香織さんを招いて

◆10月のつどいで三上智恵監督「沖縄再び戦場へ」の予告編上映で制作カンパ1万円が集まり、送金しました。ありがとうございました。完成作品のエンドロールで「西神ニュータウン9条の会」名で掲載されます。

「Act Now 1(イチ)の日行動にご参加を！」

★毎月一回、西神中央駅前「改憲 No! 九条壊すな!」のアピール行動が続いています

★次回は 2024年1月10日(水) 16:00~17:00

「緊迫時代における憲法9条のリアリティ」

水島朝穂早大教授の講演を聞いて

西区文化センターで「神戸憲法集会」が開催されました。当日は、憲法公布から77周年にあたり「なでしこホール」には約400名が参加。講師は水島早大教授、テーマは「軍事大国化への動きと平和憲法のメッセージ」でした。

最初にウクライナ戦争について「戦争はウクライナを戦場にロシアと米英を中心とするNATOとの代理戦争であり、消耗戦によるロシアの弱体化ととりわけ米国の軍事覇権の拡大がその背景にある」と指摘。

その影響は日本の「台湾有事」「日本有事」を煽り、軍事費倍増や沖縄・南西諸島での新基地建設を加速する動きにつながっている。

また「昨年12月、閣議決定で安保文書が改定され敵基地攻撃が反撃能力と言い換えられ、従来の自衛隊合憲論の要であった専守防衛が切り捨てられた」と説明。

今、イスラエルとパレスチナ戦闘で武力による住民虐殺が繰り返されています。戦争による、武力による平和はありえない現実を私たちは知らされています。

水島教授は、最後に「直近の戦争の悲惨さを知るにつけ今こそ憲法9条の非戦のリアリティを認識すべき」と述べられました。

(文責)春日台・大西

ジョー 旬

お題「熱燗」

連日の 祝杯ラッシュ 大トラに (空耳)

自由題

「身を切る」と バッサリ切られる 納税者 (万博)
とどめさす コロナの後の インボイス (伝伝)

1月のお題は「初詣」

y-onishi@live.jp

に投稿お待ちしております。

月のお題を
設けました
自由題も
OKです

11月のつどい 海外レポート

11月19日開催の「つどい」は会員2名による海外体験報告でした。

お二人方はこれまで定期的に現地を訪問し、現在も研究交流や教育支援に携わっています。

「等身大の中国」

西元さんの「等身大の中国」では西安(旧長安)などの研究所での技術交流や黄河上流の蘭州・チベット自治区訪問など延2000kmの報告でした。中国では再生エネルギー比率が46%(日本23)を占め上海など大都市部の大気汚染が改善。高速道路や高速鉄道の整備が進み(北京-西安1200km4時間余)社会的活力を感じる。情報インフラも進みチベットなど辺境地域に5Gが敷設。EV車が普及し20%に。海外の自動車メーカーは撤退も。給与もコロナ禍でも上昇し、国営企業で平均年収が230万円、上海・北京では400万円台とほぼ日本と同等。内需が巨大市場と実感。一方で地方都市で建設中断のマンションが散見。

「今や外国人が支える日本に！ネパールから」

島田さんの「ネパール」では、日本でも外国人労働者が増える中で直近急増しているネパールからの報告でした。現在日本では約180万人の外国労働者が働いています。元々外国人労働は40年前日本の繊維産業の人手不足対策として技術移転を目的に開始されました。現在では適用業種も拡大し、建設・介護・農漁業・販売分野にも。カトマンズでは約300の日本語学校があり毎年6000名が検定試験。借金や日本での語学授業料など過大な負担も。日本での行政サービスが受けづらい。今後も外国人労働者の比重が増す中、共に暮らす地域でどのように共生していけばいいのか。西区美穂が丘では市営住宅に住む外国人労働者と住民の交流会が行われています。

他国を訪ねそのひとたちと直接触れ合うことで自国や自身を改めて見つめる事になります。国と国の関係、メディアの報道などとは違った市民交流の大切さを感じる「つどい」となりました。春日台・大西

2023年12月発行：西神ニュータウン9条の会

〔HP〕 <http://www.ne.jp/asahi/seishin/9jyonokai>

HPへリンク